

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

温める～水～／鹿児島大学教育学部附属幼稚園（鹿児島県）

水を使って遊ぶことが大好きな子どもたち。皆さんの園の子どもたちは、どのような水の遊びを楽しんでいますか？

「冷たいお水をお湯にしよう」との目的をもった4歳児の子どもたちが、考えたり試したりしてお湯を作ろうとする姿に注目しています。友達や保育者と共に試行錯誤していく過程に、「科学する心」の育ちを読み取ることができます。



● 温泉を作りたい！／4歳児

✦ 事例（5月）

4歳児が、土山に掘った穴の中に水を溜め、足を浸して温泉ごっこをして遊んでいた。

Aさん：「水が冷たいね」

Bさん：「先生も温泉に入ったら？ 気持ちいいよ」

保育者：「先生、この前入ったんだけど、水が冷たくて寒くなっちゃったんだよね……」

Bさん：「お湯を入れたら、温泉みたいになるんじゃない？」

Aさん：「いいね。先生、お湯がほしいんだけど」

保育者：「それは、楽しそうだね。だけど、幼稚園の水道はお湯が出ないんだよね……」

Cさん：「じゃあさ、お湯を作ろうよ」

保育者：「どうやって？」

Aさん：「水を温めたら、お湯になるよ」

Dさん：「でも、ここは太陽が当たらないから、お水は温かにならないよ」

保育者：「そうか、太陽の光が当たると、水は温かくなるの？」

Dさん：「そうだよ。お水を太陽に当てればいいんだ」

Cさん：「そう。太陽の光を反射するの」

Bさん：「じゃあ、あっち（日向）で温泉を作ろうよ」

ペットボトルに水を入れて日向に置き、お湯作りが始まった。Aさんは、太陽の光に少しでも近づけようと、椅子の上にペットボトルを置き、Cさんは、太陽の光を探して、ペットボトルを頻繁に移動させていた。Bさんは、「お湯を作っています」という看板を作り、周りの友達に動かさないように伝えた。

片付けの時間が近づき、触って確かめたが、お湯はできていなかった。子どもたちは互いに「失敗だったね」と言い合い、日に当たる時間が足りなかったからだと考えた。

そして、また作ることを約束した。

数日後、今度はタライに水を溜めて試したが、お湯にはならなかった。その原因は、曇り空だったからではないかとみんなで話し合った。

その次の日、Bさんは、友達や保育者に「今日も温泉ごっこをしよう」と声を掛け、お湯作りを始めた。



Bさん：「今日は、昨日より暑いから温かくなりそう！」

保育者：「昨日、Dちゃんが時間のことも言っていたね」

Cさん：「そうだ。今日は、昨日よりもっと長く置こうよ」

そこで、午後までタライを残しておくことをみんなで決め、以前作った看板をタライの近くに置き、他の友達が間違っ

て遊ばないようにした。弁当を食べ終え、午後の遊びが始まった。子どもたちは、タライの水の温度を触って確かめた。

Aさん：「先生、水が温かくなってるよ！」

Bさん：「本物の温泉みたい」

保育者：（触ってみる）「本当だね」

Cさん：「今日は、太陽の光がたくさんあったからだね」

Aさん：「ほらね、私の言った通りだったでしょ」



✦ 「科学する心」に関する考察

● 本事例における「科学する心」

興味・関心／やってみよう／自分の考えを試す／生活経験で得た知識や言葉を活かす／触って温度を確かめる／結果から原因を探る／先生や友達と話し合う／試行錯誤を繰り返す／太陽の光でお湯ができることが分かる／達成感・成就感を味わう／友達と試す楽しさを味わう

● 子どもの思いや願い

- 水が冷たいことからお湯を作ってみようと考えた。
- うまいかないことを繰り返しながらも、成功させたいという思いをもち続けた。
- お湯にすることに成功した喜びを味わった。

● 「科学する心」に迫る気づき

- 水をお湯にするためには、太陽の光が必要だということに気づいた。
- お湯にするためには、太陽に当てる時間の長さも関係あることに気づいた。

● 「科学する心」に迫る行動

- これまでの生活経験で得た知識で水を太陽の光で温めると、お湯になることが分かり、試してみた。
- 太陽でお湯にする方法を出し合い、光の当て方や看板を描くなど試行錯誤を繰り返した。
- 友達や保育者と一緒にお湯にならない原因を話し合った。

● 保育者の援助

子どもたちの気づきを促す言葉を掛け、一緒に試して原因を探ったり、次へつなげるための意欲づけをしたりするようにした。